

鳥獣類による農作物被害調査概要

農林水産省農蚕園芸局植物防疫課

鳥獣による農作物の被害は、環境の変化等により近年その被害の発生が問題となってきた。当課では鳥獣による農作物被害対策を検討するための参考資料として利用できるよう、鳥獣による農作物の被害調査を行っているところである。以下は、平成3年度の調査の結果の概要である。

I 調査方法

調査は、平成3年4月1日から平成4年3月31日までの1年間を対象とし、被害地帯における巡回調査及び市町村、生産者団体等からの報告による被害状況等を取りまとめたものである。

鳥獣類の種類は、鳥類は、カラス、カモ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、ハト、キジ、その他(サギ、ツグミ、オシドリ、バン等)、獣類では、サル、イノシシ、ネズミ、シカ、カモシカ、クマ、モグラ、ウサギ、その他(キツネ、タヌキ、ヌートリア等)に分類して集計を行った。

被害面積とは、農作物に損傷を生じ基準収量(被害なかりせば収量)または基準品質(被害なかりせば品質)から減量または減質した面積、被害量とは、農作物に損傷を生じ基準収量または基準品質から減量または減質した量をいう。

II 調査概要

1 被害面積

全被害面積は、258,505 ha で作付延面積(5,262,000 ha)の4.91%になる。このうち、194,172 ha(75.1%)が鳥類による被害、64,333 ha(24.9%)が獣類による被害であった。

作物別にみると、イネが138,116 haで全体の53.2%を占めており、次いで果樹で38,997 ha(全体の15.0%)、野菜で28,392 ha(全体の10.9%)の被害があった。この上位3作物で全体の約8割を占めている。

鳥獣の種類別にみると、スズメとカラスの被害が最も多く、それぞれ60,076 ha(23.1%)、58,817 ha(22.7

%)となっている。次いでハトで20,139 ha(7.8%)、シカで19,566 ha(7.5%)、ネズミで17,454 ha(6.7%)、イノシシで14,678 ha(5.7%)となっており、この6種で被害全体の約70%を占めている。

2 被害量

被害量は、鳥獣類合計で149,773 tで、鳥類が80,892 t、獣類が68,881 tであった。

作物別にみると、野菜が36,451 t(24.3%)、飼料作物が36,051 t(24.1%)と多く、次いで果樹が23,692 t(15.8%)、イネが22,777 t(15.2%)で、この4作物で全体の約80%を占めている。

鳥獣の種類別にみると、カラスが35,578 t(23.8%)、シカが31,470 t(21.0%)、イノシシが18,428 t(12.3%)、ヒヨドリが16,141 t(10.8%)で、この4種で全体の約70%を占めている。

3 作物別被害状況

イネの被害面積は138,116 haで、鳥獣の種類別にはスズメ(55,978 ha)、カモ(30,012 ha)、カラス(24,768 ha)の被害が多く、全体の約80%を占めている。また、被害量は、イネ全体で22,777 tで、スズメ(6,767 t)、イノシシ(4,968 t)、カラス(4,714 t)の被害が全体の約70%を占めている。

特にイノシシは、被害面積に比べ被害量が多くなっており、甚大な被害を与えることがわかる。

果樹の被害面積は38,997 haで、そのうちカラス(15,828 ha)、ヒヨドリ(6,728 ha)、ムクドリ(5,346 ha)の3種の被害で全体の約70%を占めている。被害量は、23,692 tで、カラス(7,998 t)、ムクドリ(5,967 t)、ヒヨドリ(3,309 t)の被害が多い。

野菜の被害面積は28,392 haで、カラス(11,230 ha)、イノシシ(2,864 ha)、ハト(2,739 ha)の被害が多く、この3種の被害で全体の約60%を占めている。被害量は、36,451 tでヒヨドリ(12,639 t)、カラス(9,581 t)の被害が多い。

ムギ類の被害面積は10,008 haで、ハト(2,605 ha)、ネズミ(2,132 t)の被害が多い、被害量は、3,008 tでハト(1,076 t)、シカ(690 t)の被害が多い。

マメ類の被害面積は14,982 haで、ハト(8,448 ha)、カラス(3,255 t)の被害が多く、この2種で被害の約80%を占めている。被害量は3,894 tでハト(2,100 t)の

A Survey on the Damage of Agricultural Crops by Birds and Mammals in 1987.

By Plant Protection Division, Agricultural Production Bureau, MAFF

鳥獣類による農作物被害状況 (平成3年度)

(1) 鳥類

(被害面積: ha, 被害量: t)

合 計		カラス		カモ		ヒヨドリ		ムクドリ	
被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量
194,191	80,892	58,817	35,578	32,996	2,073	9,126	16,114	6,624	6,522
スズメ		ハト		キジ		その他の鳥類			
被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量
60,076	7,770	20,139	10,246	643	471	5,770	2,118		

(2) 獣類

合 計		サル		イノシシ		ネズミ		シカ	
被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量
65,424	68,881	4,978	5,467	14,678	18,428	17,454	3,113	19,566	31,470
カモシカ		クマ		モグラ		ウサギ		その他の獣類	
被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量
906	569	1,878	2,449	617	338	3,265	3,464	2,082	3,583

(注) 都道府県からの報告による

被害が約50%を占めている。

飼料作物の被害面積は19,032 haで、シカ(14,145 ha)の被害が約70%を占めている。被害量は、36,051 tでシカ(16,482 t)、カラス(10,133 t)の被害が約70%を占めている。

イモ類の被害面積は4,866 haで、そのうちイノシシ(2,166 ha)の被害が約45%を占める。被害量は8,493 tで、イノシシ(5,010 t)の被害が約60%を占めている。

テンサイ等の工芸作物の被害面積は3,404 haで、シカ(1,731 ha)の被害が約50%を占めている。被害量は14,388 tでシカ(10,395 t)の被害が約70%を占める結果となっている。

III 被害防止上の問題点と今後の対策

問題点としては、

- ① 防鳥網や防護柵の設置は効果が期待できるが、労力及び資材費がかかるため広域で実施すること

が困難でこれらの対策を講じない圃場に被害が集中することがあること、

- ② 防鳥テープや爆音機などでは慣れが生じるため効果が持続しないこと、
 - ③ 「鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律」の規定により、狩猟鳥獣以外の捕獲の禁止、鳥獣保護地区・民家周辺などにおける銃器などの使用の禁止、捕獲方法の限定などがあることや、「有害鳥獣の駆除」の実施もその規制と、ハンターの不足等の理由から十分効果をあげることができないこと、
- などがある。

今後は、鳥獣害防止のため、効果が長期間持続する物理的防除法や耕種的防除法、密度抑制のための生態的防除法、忌避剤などを利用した化学的防除法などの技術の開発を進めるとともに、圃場周辺の地形などの環境を考慮して有効な防除法を選定し、数種の防除法を組み合わせるなどの工夫をして防除を図る必要がある。